

「4月の施餓鬼会について」

先日往復葉書でお知らせした4月19日の「施餓鬼会春季総供養・花園会総会」ですが、妙心寺派は3月開催予定の巡教を全国すべて中止し、四国東教区も4月の巡教を中止しました。よって實相寺の施餓鬼会も延期する可能性が**あります**。詳細は4月の花園会報でお知らせしますので、宜しくご理解の程、お願いいたします。

「第6部花園会本山団参」

去る2月12日(水)〜13日(木)の両日、四国東教区第6部花園会の主催によるはじめての本山団体参拝が実施され、實相寺からも新居第6部会長を含む6名のご参加がありました。

一日目はもっぱら妙心寺を拝観。開山堂や法堂だけでなく、非公開の塔頭、

東海庵、龍泉庵にもお参りし、夜は花園会館で舞妓さんの踊りを満喫。

二日目の午前中は京田辺の一休寺へ、精進料理のお昼を頂いた後、午後は八幡の圓福寺を訪ねました。圓福寺は若い雲水さん達が修行する禅の専門道場で、京セラの稲盛氏が修行したことで有名です。

普段外部の人は立ち入れませんが、今回特別に参拝が許され、老師様のご法話も拝聴することが出来ました。



實相寺 花園會報

令和二年
三月一日発行
發行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会

〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL.087-889-3838
編集發行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第131号

「露堂々」

妙心寺派管長

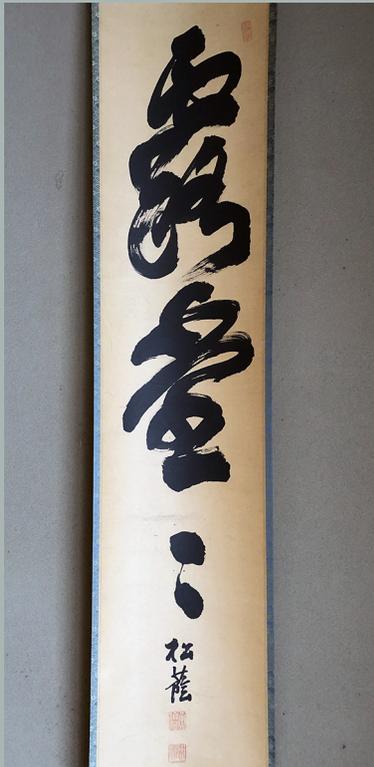
松蔭室

神月徹宗老大師

(明治十二年〜昭和十二年)
すべてのものが、少しも隠れることなくむき出しになっている様子。

『茶席の禅語句集』より)

神月徹宗老師は昭和初期に妙心寺派管長として、禅界の現代化に貢献を果たした方。昭和十二年高知へ向かう道中、交通事故により遷化された。



「お寺の現状について」(1)

去る2月18日〜21日の3日間、妙心寺派では令和2年度の予算を審議する定期宗議会が開かれ、住職も四国東教区選出の議員として上山しました。

先月NHKニュースでも取り上げられたので、ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、数年前より妙心寺派では定年退職後の出家希望者を募っています。これは2月現在、約3300ヶ寺の全国末寺の内、約1100ヶ寺の住職が居ないことに起因します。

昨年9月の議会では、令和元年度の補正予算で約10億円の会計で予備費が80万円しか計上出来ないことが報告され、今回、令和2年度予算では財政調整基金から3千万円を繰り入れる、実

質赤字予算が上程されました。よって

令和3年度の予算では何らかの宗費の見直しが必要だと示唆され、そこで質問したのが左記の業界紙の記事です。

妙心寺派の経営が逼迫しているという事は、末寺の経営も逼迫しているということですので。ただ単に末寺の負担を増やしていくだけでは、将来末寺の経営は破綻し、結果として妙心寺派全体の教勢が衰えてしまうでしょう。

同じことは箇々の寺院についても言えます。お寺の経営が成り立たないからと、いたずらに檀家さんの負担を増やすようなお願いをすれば、昨今は檀家さんも高齢化し、年金暮らしの方が多いですし、団塊以降の方々は若い頃から故郷を離れた方も多いため、菩提

寺に対する帰属意識は希薄です。「も

っとお金の掛からないお寺に移る」もしくは「お寺はもう要らない」となる

恐れさえあります。

そこですでにするのか、が今後の課題なのですが。(次号に続く)

「10年後の展望」要求に対し

宗務本所スリム化図る

栗原総長

妙心寺派定宗通告質問①

臨濟系妙心寺派の第138次定期宗議会は財政的課題が焦点になったが、19日に行われた通告質問ではそれを踏まえて山本文匡議員が「宗門のあるべき姿」について質問した。山本議員は「毎歳香資や花園会費の見直しなく、対処療法的に寺

びが持てる宗門に」との将来像を描いた。

栗原総長は「本所の移転が一つのチャンス。制度も含めて何を残すか、皆さんの知恵を頂きたい。寺院数が減少する中で各教区が担う機能の精査も必要。岐阜西、愛知東の2教区で部が再編されたが、今後は部ばかりでなく教区の再編も必要

【中外日報】2/28より

になる」と話した。また後継者の育成に関して「宗門の根幹の専門道場が大変厳しい状況にある。どうすれば次代を担う方々が妙心寺派の僧侶になって『頑張るぞ』という気持ちを持てるか。それを真剣に考えないと教団の未来はない。皆さんの英知を頂きたい」と要請した。

上沼総務部長は、モア・スモール、モア・シンプル、モア・ストロングの三つの「S」をキーワードに、寺院経営の基盤を見直し、宗務機関の分散化を進め、無住寺院対策に取り組み、教区・部の再編、ペーパーレス化、インターネットへの対応強化や人員削減などを図りたいと説明。教団と寺院をより強くする意識を高揚させ、正当な寺班を付与し、寺族の福利厚生の上を図って、困窮した寺院の再生化などが必要とした。また教団や寺院が持つ現状の資産やつながりをもっと活用したいと話した。

(萩原典吉)